

論文審査の結果の要旨

報 告 番 号	甲 第 1 4 号
論 文 名	学校外食育の指導方法に関する研究 (A Study on the Teaching Methods of Outside-School Dietary Education)
氏 名	坂本 廣子
審 査 委 員	主 査 教 授 曾 根 良 昭 印 副主査 教 授 中 野 和 光 印 副主査 教 授 藤 井 わか子 印
<p>本論文が研究対象とする“学校外食育”は様々な場所・方法で実践されている。しかし、これまで学校外食育を教育指導方法の観点から体系的に研究した例は殆どない。本論文では本論文の著者がこれまで行ってきた学校外食育の実践を「公衆教育学」の一部とみなし、いくつかの教育理論を基に分析・考察して学校外食育の指導方法の特質と課題を明らかにしたものである。</p> <p>本論文では著者の実践を、料理の知識と技術が転移して「わざ」となる「教授学的状況」を英国のアレキサンダーが授業方法の国際比較に用いた枠組み（対象、指導者、空間、課題、活動、相互作用、判断）に基づいて実践例の比較分析表を作成し、それに基づいて学校外食育の指導方法の特質と課題を検討している。</p> <p>その結果、学校外食育は広い年齢層を対象とし、指導者も母親、地域住民など幅広く、多彩な実践空間で実践可能なことが示された。また料理の実践を行うことにより料理の知識と技術が転移して「わざ」となることにより、参加者が食生活者として自立することに学校外食育が貢献できることを明らかにしている。</p> <p>以上のように本論文は学校外食育の特性を系統的に明らかにしたことに意義があり、料理の知識と技術の体験による“食”の伝承という特性をもって学校外食育が学校食育と連携することにより我が国の食育教育の発展に寄与できることを認識させたことは、博士（学術）の学位授与に値するものと審査した。</p>	